

項目	
目的	平成30年度の診療報酬改定で、手術前医学管理料の請求要綱に「肝炎ウイルス検査の結果が陰性であった場合も含め、検査の結果について患者に適切な説明を行い、文書で提供すること」が盛り込まれたことを踏まえ、県内医療機関の肝炎ウイルス検査結果の説明状況等を確認することで実施体制の課題等を把握し、今後の肝炎対策の推進のために活用する。
調査対象	青森県「肝炎ウイルス検査」指定医療機関168
回答方法	調査票を郵送にて送付し、FAXにより回答票を受けた
調査期間	令和3年12月17日から令和4年1月7日
回収率	発送数168 回収数125 回収率は 74.4%
参考	アンケート項目は、令和2年度厚生労働科学研究費補助金 分担研究報告書にある「一般医療機関における術前検査等での肝炎検査実施状況に関するアンケート調査」を参考に作成した。 研究分担者 内田義人氏（埼玉医科大学 消化器内科・肝臓内科 助教）

1. 肝炎ウイルス検査の実施について（複数回答可）

（ここでは医療機関における感染症対策の一環として行う検査とお考え下さい。）

- 入院時にルーチンで実施している
- 内視鏡検査時や手術前検査としてルーチンで実施している
- 特に実施していない
- 該当しない ※入院や手術を実施していない場合にはここをお選びください。

2. 肝炎ウイルス検査結果の説明について

（原則、いずれか一つを回答。診療科で対応が異なる場合は複数回答可）

- 主治医に一任しており、特に院内での決め事はない
院内で以下いずれかの対応を各診療科に求めている
- 結果の如何（陽性、陰性）に関わらず、口頭で結果説明し、文書で提供している
- 結果の如何（陽性、陰性）に関わらず、口頭で結果説明している
- 陽性の場合のみ、口頭で結果説明し、文書で提供している
- 陽性の場合のみ、口頭で結果説明している

3. 手術前医学管理料には肝炎ウイルス検査が包括されています。

この管理料算定の下、ウイルス検査を行った場合、（陰性であっても）結果を説明し、文書により提供することが求められていることについて

- 知っている
- 知らなかった
- 該当しない ※手術を実施していない場合にはここをお選びください。

4. 肝炎ウイルス検査で陽性となった患者への対応について

- 院内の肝臓専門医へ紹介するなど、積極的に精密検査や治療を促している
- 肝臓専門医のいる医療機関へ紹介し、積極的に精密検査や治療を促している
- 特に組織としての方針は立てず、主治医に一任している

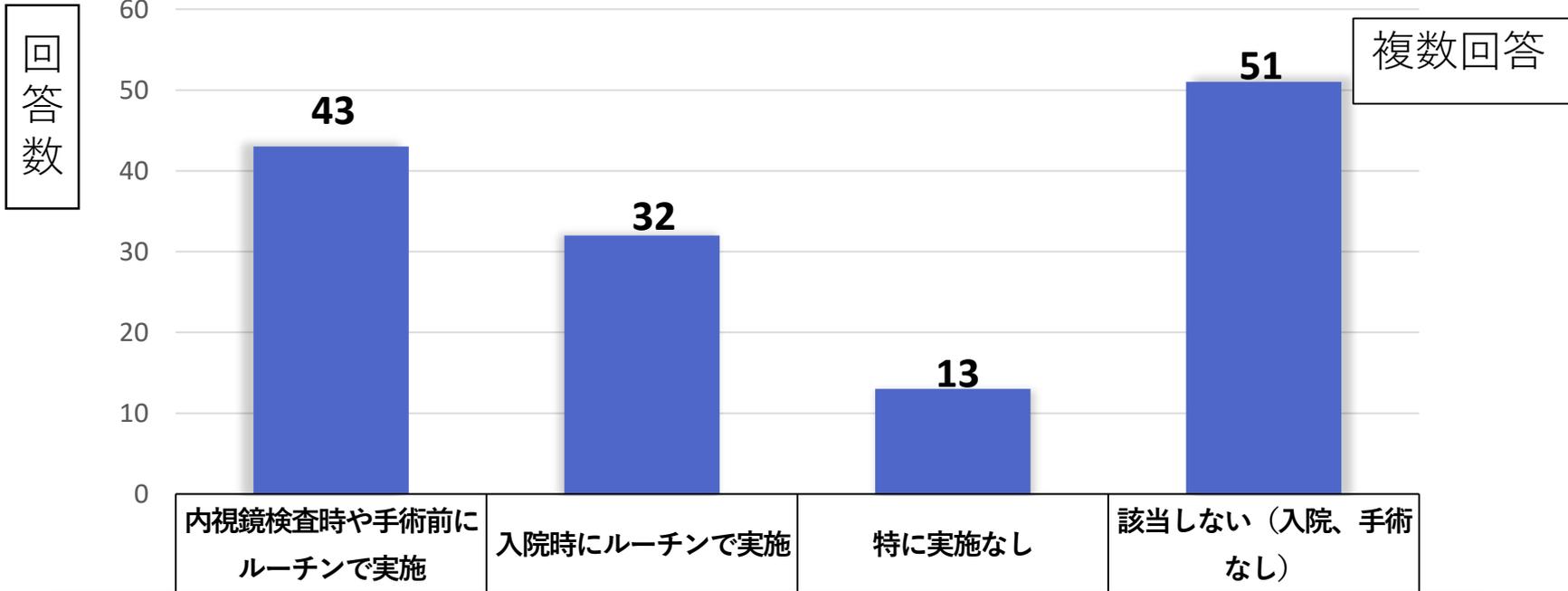
5. 肝炎医療コーディネーターについて

- 院内に肝炎医療コーディネーターがおり（主治医や患者への）説明等に関わっている
- 肝炎医療コーディネーターがいるが、特にその役割は決めていない
- 肝炎医療コーディネーターはいない
- 肝炎医療コーディネーターがいるかどうか分からない

6. 肝疾患の診療体制について

- 肝臓学会認定の専門医（常勤・非常勤問わず）が対応している
- 消化器病学会認定の専門医（常勤・非常勤問わず）が対応している
- 専門医が不在の為、他の施設と連携している
- 他院との連携を含め、肝炎ウイルス検査陽性者への診療体制が確保できていない。

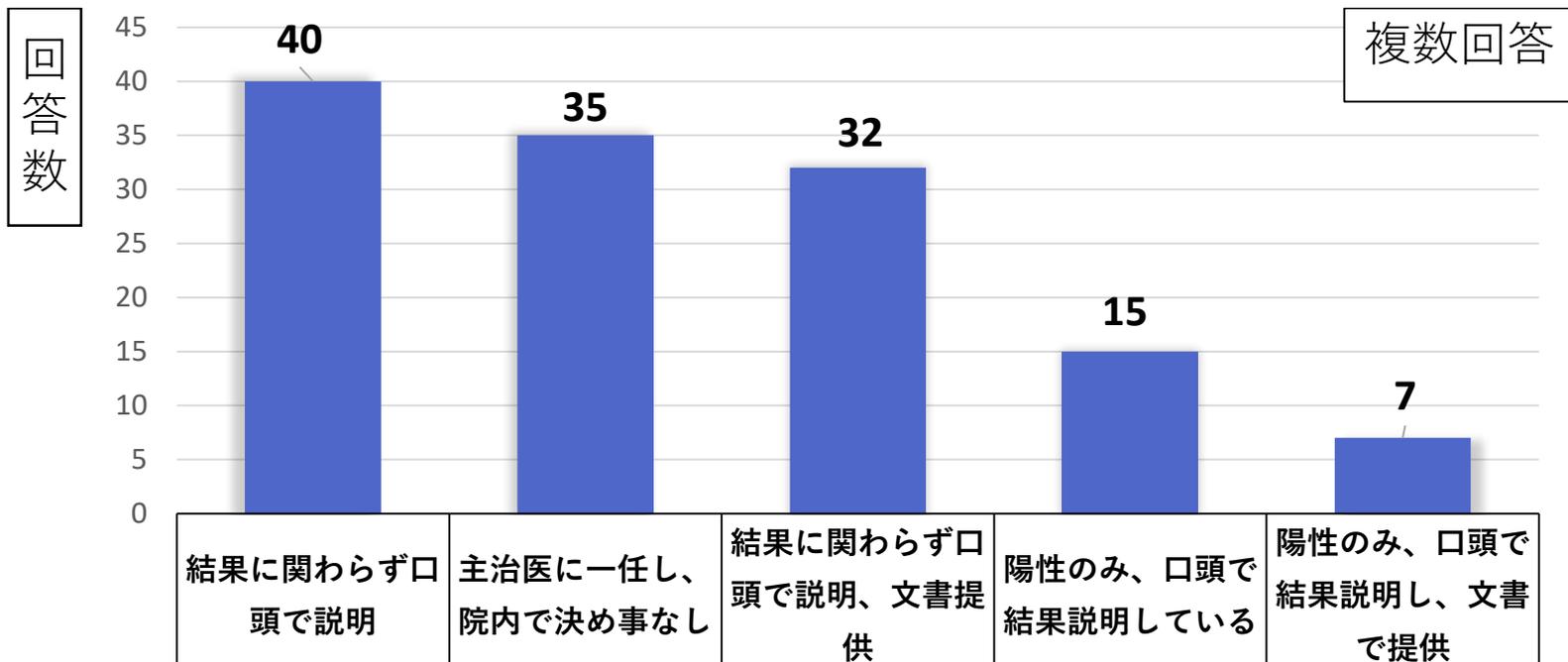
1. 肝炎ウイルス検査の実施状況（感染症対策の一環）



医療機関からの回答	(数)	(割合)
内視鏡検査時や手術前にルーチンで実施	43	34.7%
入院時にルーチンで実施	32	25.8%
特に実施なし	13	10.5%
該当しない(入院、手術なし)	51	41.1%

回答医療機関数 n = 124

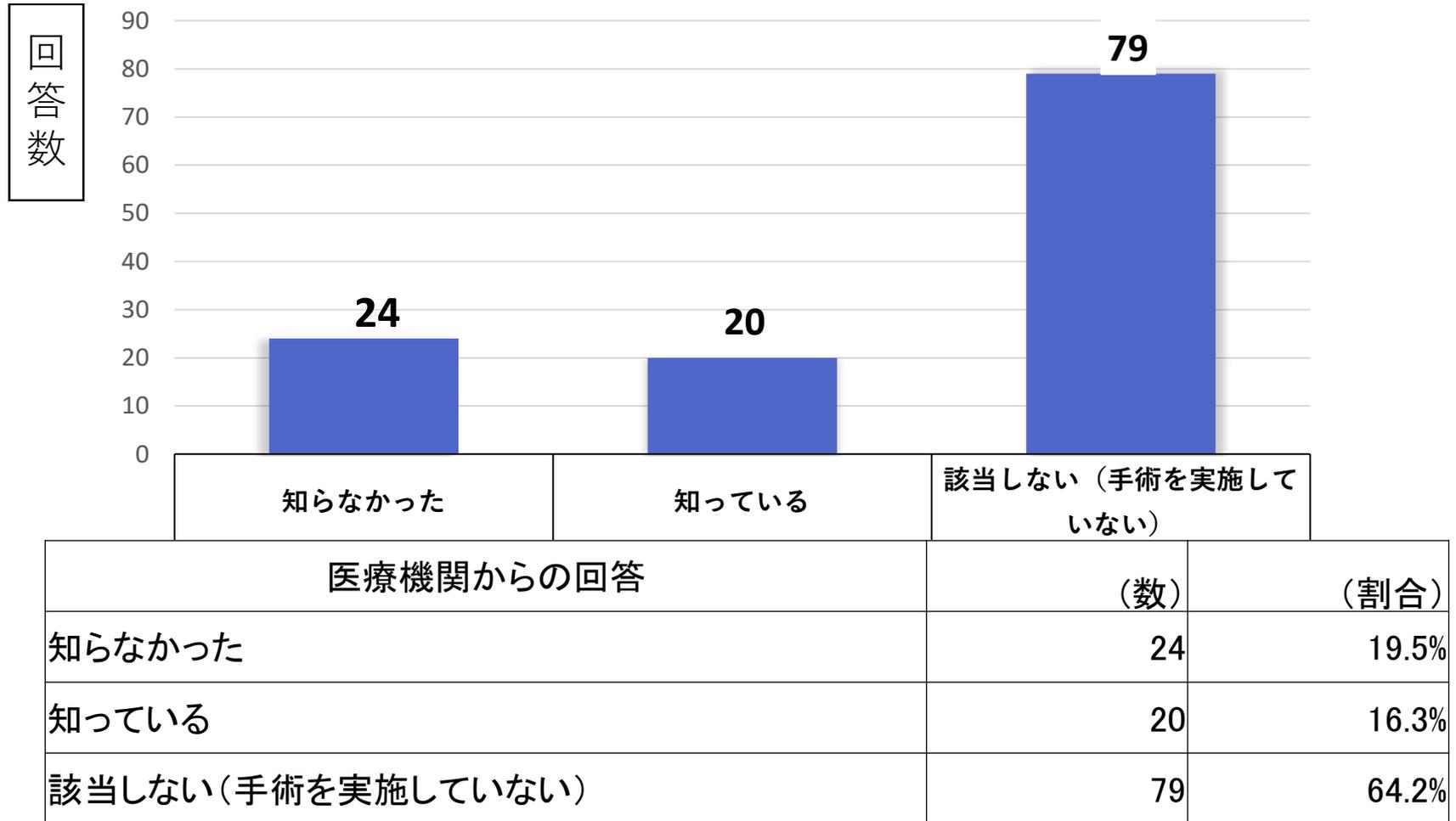
2. 検査結果の説明について、院内で決め事の有無



医療機関からの回答	(数)	(割合)
結果に関わらず口頭で説明	40	32.3%
主治医に一任し、院内で決め事なし	35	28.2%
結果に関わらず口頭で説明、文書提供	32	25.8%
陽性のみ、口頭で結果説明している	15	12.1%
陽性のみ、口頭で結果説明し、文書で提供	7	5.6%

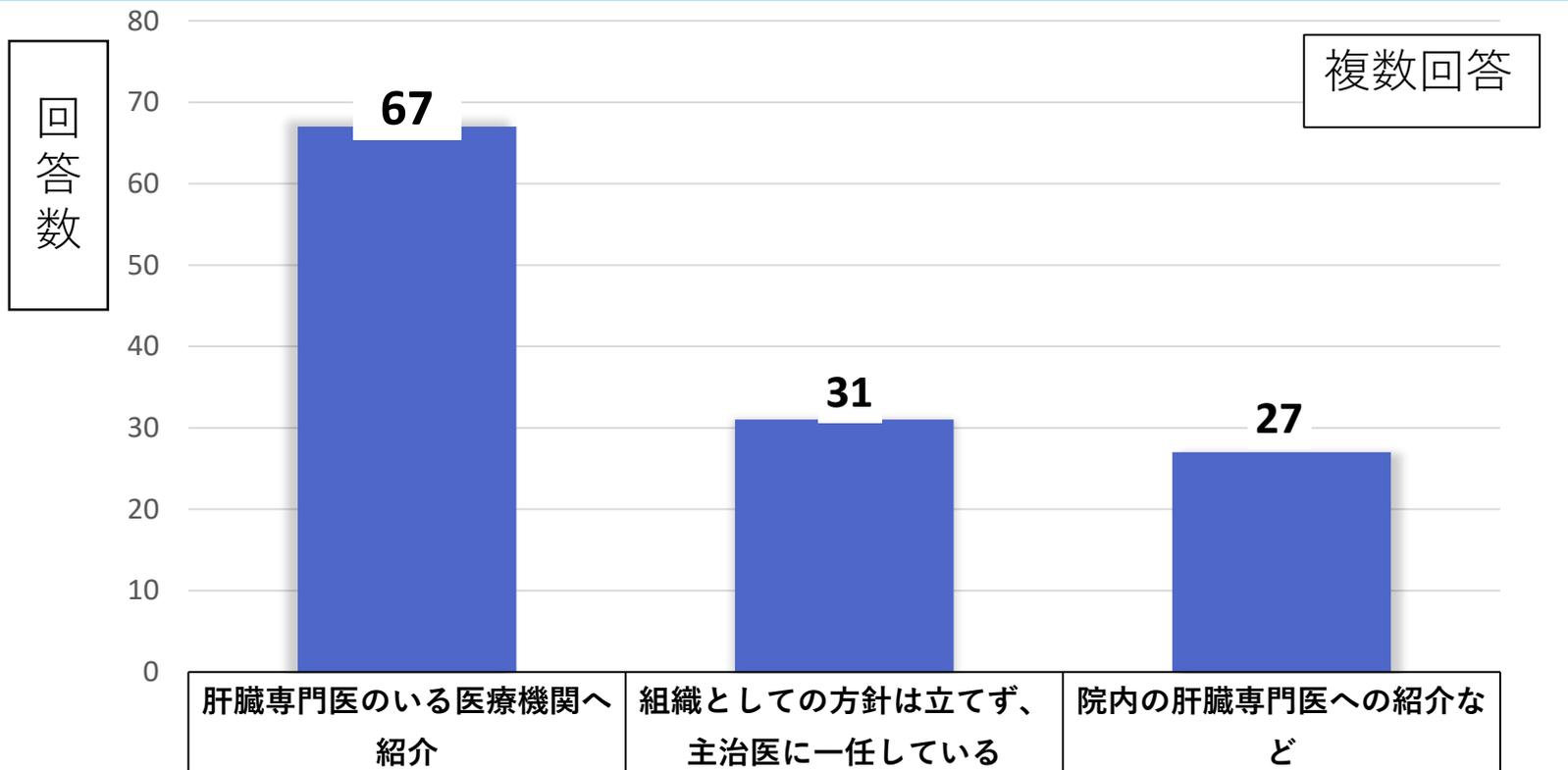
回答医療機関数 n = 124

3. 手術前医学管理料算定の下に、肝炎ウイルス検査を行った場合に結果を説明し、文書を提供することについて



回答医療機関数 n = 123

4. 肝炎ウイルス検査で陽性となった患者への対応について

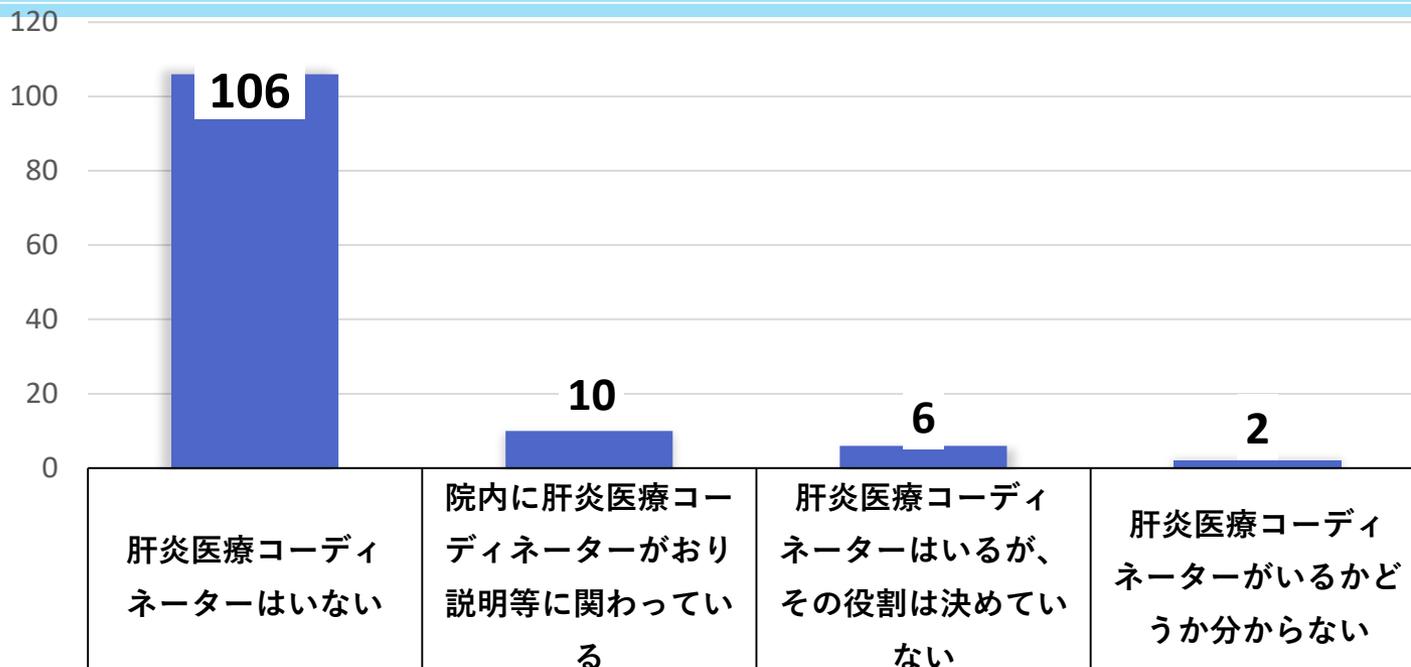


回答数

回答医療機関数 n = 124

5. 肝炎医療コーディネーターについて

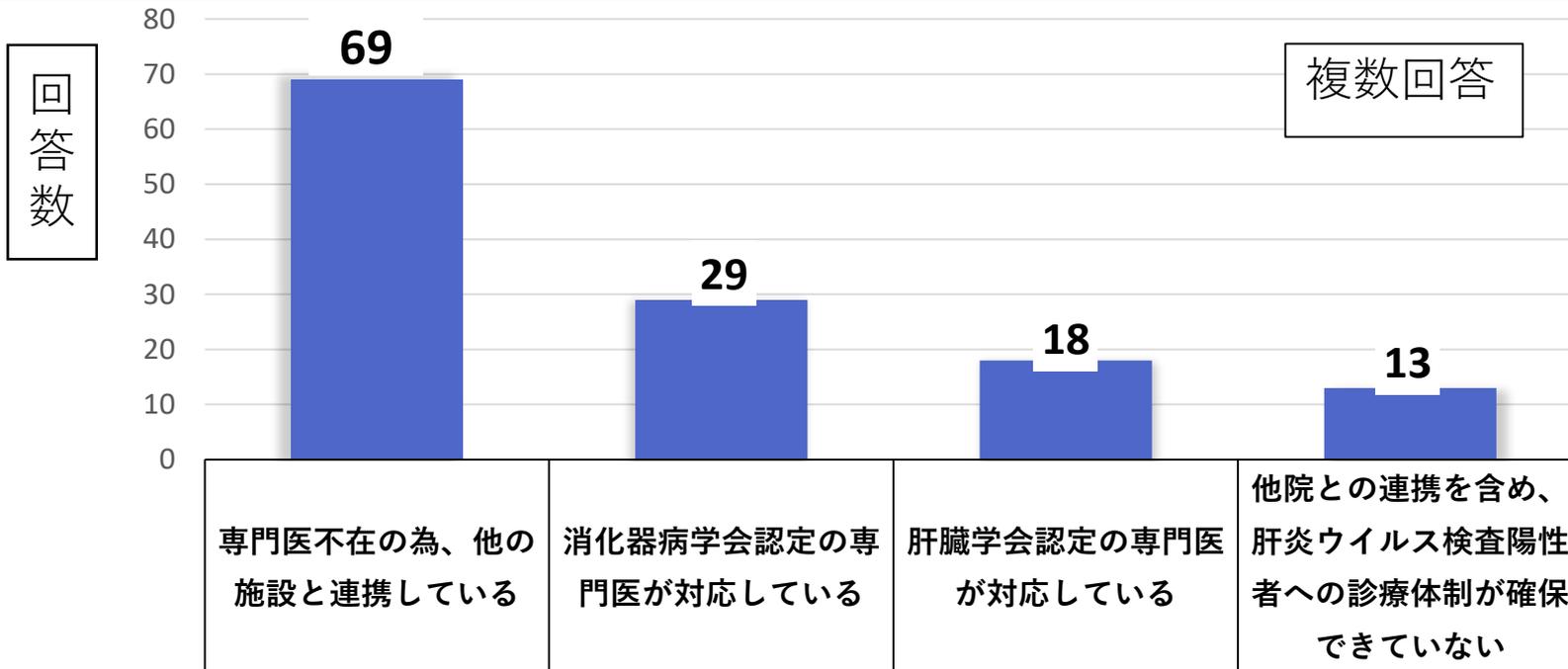
回答数



医療機関からの回答	(数)	(割合)
肝炎医療コーディネーターはいない	106	85.5%
院内に肝炎医療コーディネーターがおり、説明等に関わっている	10	8.1%
肝炎医療コーディネーターはいるが、その役割は決めていない	6	4.8%
肝炎医療コーディネーターがいるかどうか分からない	2	1.6%

回答医療機関数 n = 124

6. 肝疾患の診療体制について



医療機関からの回答	(数)	(割合)
専門医不在の為、他の施設と連携している	69	56.6%
消化器病学会認定の専門医が対応している	29	23.8%
肝臓学会認定の専門医が対応している	18	14.8%
他院との連携を含め、肝炎ウイルス検査陽性者への診療体制が確保できていない	13	10.7%

回答医療機関数 n = 122

課題

項目	主な課題
1. 肝炎ウイルス検査の実施について	特に認められなかった。
2. 検査結果説明について	「結果に関わらず口頭での説明」が32%で最も多く、患者によっては結果を覚えておらず、不要な肝炎ウイルス検査の重複受検につながるおそれがある。
3. 手術前医学管理料算定時に肝炎ウイルス検査結果を文書により提供することについて	19%が「知らなかった」との回答、手術前医学管理料算定時に肝炎ウイルス検査を行った際は結果を文書により提供することについて、周知がうまくされていない可能性がある。
4. 肝炎ウイルス検査で陽性となった患者への対応について	25%が「組織としての方針は立てず主治医に一任」とされている。
5. 肝炎医療コーディネーターについて	85%が「いない」、2%が「いるかどうかわからない」
6. 肝疾患の診療体制について	10%が「他院との連携を含め、肝炎ウイルス検査陽性者への診療体制が確保できていない。」

課題への対応 案

項目	次について、県から医療機関への積極的な周知、普及啓発を図る。
1. 肝炎ウイルス検査の実施について	
2. 検査結果説明について	対象患者が検査結果を正しく把握できるように医療機関から対象者に対して「肝炎検査結果記録カード」を積極的に周知、配布いただくことの協力依頼をする。
3. 手術前医学管理料算定時に肝炎ウイルス検査結果を文書により提供することについて	手術前医学管理料算定時のルール（肝炎ウイルス検査結果を文書により提供すること）について周知する。
4. 肝炎ウイルス検査で陽性となった患者への対応について	肝炎ウイルス検査陽性となった患者への組織的な対応を進めることの重要性、メリット等を啓発する。
5. 肝炎医療コーディネーターについて	引き続き、肝炎医療コーディネーターの役割等について関係機関に周知を図りつつ、養成を進めていく。
6. 肝疾患の診療体制について	肝臓専門医がいない医療機関において、肝炎ウイルス検査陽性となった患者が確実に専門医療機関につながるような対応（組織体制）の重要性、メリット等を啓発する。